

県指定史跡

北野の石龕（せきがん）

指定 昭和四十年二月一日

所在 黒部市北野字稲場圃五七

管理者 二本松 敬彦

石龕とは、石を彫りくぼめ仏像を安置するものである。この石龕は一边が約八十センチの板状の切石を組み合わせ、上に別石をおくもので、奥壁に阿弥陀如来坐像と向かって左に合掌する勢至菩薩と右が蓮台をもつ観世音菩薩、左右壁に、六道(天道・人道・修羅道・餓鬼道・畜生道・地獄道)で衆生を救済する僧形の六地藏が刻まれている。

この石龕は「北のミヨウトウ」とも呼ばれている。また永海(または栄海)という僧の作、あるいは塚であるという言い伝えがある。永海の名は、建暦二年(一一二二)遺立の阿弥陀如来立像(京都・浄土宗蔵)胎内から発見された「越中国百万遍勤修人名」中に見える。また、加賀藩が貞享二年(一六八五)に領内の寺社に差し出させた「寺社由緒書」に、橋屋・法伝寺、浦山・法伝寺、魚津・西願寺、三日市・西徳寺、石田・西往寺、永正四年(一五〇七)開基の猪谷・宝樹寺の開山(初代住職)として見える名でもある。いずれとも決しかたいが製作は南北朝頃との説がある。

平成二十七年三月二十九日

富山県教育委員会

黒部市教育委員会







































































































沓掛八幡社秋祭り

9月22日(土) 4区〜3区

9月23日(日) 2区〜八幡社

午後5時頃 八幡社

踊り奉納披露











